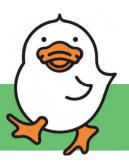
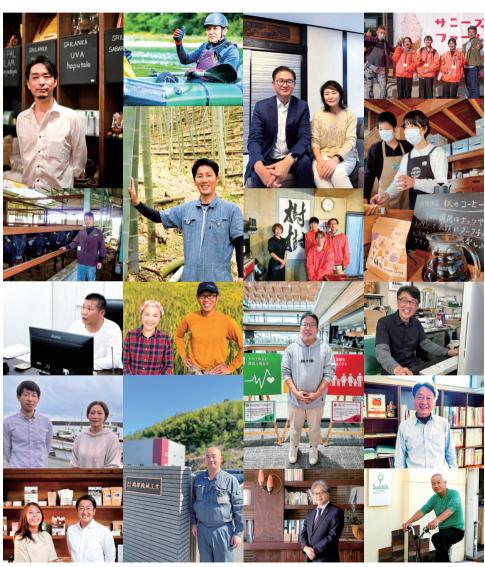
地域で活躍する 18人に**インタビュー**

ドリマット Ver.SDGs 大正大学の 学生が取り組む まちづくり











「阿南人」

2023年3月発行

発行者:大正大学地域創生学部 東京都豊島区西巣鴨3-20-1 監修:大正大学地域構想研究所阿南支局 阿南市富岡町今福寺42-1 TEL. 0884-49-3899 E-mail. s_suzue@mail.tais.ac.jp

本冊子は「四国の右下」若者創生協議会の令和4年度「県南地域づくりキャンパス」事業により制作いたしました。 このキャンパス事業は徳島県南部総合県民局と管内1市4町が連携し、徳島県南部圏域における交流人口の拡大や若者の発想、 大学の専門的知見を生かした地域課題の解決を目的として、大学生によるフィールドワーク等を行なっています。



ブラボー!! 「阿南人」

大正大学の現地実習が3年ぶりに復活しました。宮 城県南三陸町から宮崎県延岡市まで9つの地域で、前 半・後半それぞれ10日間の日程で実施。阿南市では 10月3日から9人、10月24日から9人、合わせて 18人の学生(2年生)が感染対策に留意しながら活動 しました。入学当初からコロナ禍に翻弄された学年だ けに、現地実習にかける意気込みは相当のものでした。

実習目標は地域人の探求、体験と自主活動です。阿 南市ではこれまで「新野人」(2016)、「新野人 Vol.2」 (2018)、ミライ企業冊子(2019)、阿南人(2021)と、 地元の人や企業の皆さんとの交流を記録に残してきま した。そこで学生たちと相談し、SDGs を実践する事 業者として阿南市が認定した ESPA (EARTH SHIP PERTNER ANAN: 通称エスパ) の方々にインタビュー を実施。3人1組で事業所を訪問し、事業内容や課題、 SDGs への取組について取材しました。ある社長から

は、起業するまでの歩みや地域貢献、人生観を熱心に 語っていただき、「自分の将来のロールモデルに出会 えた」と目を輝かせる学生の姿が印象的です。実習終 了後も編集作業を続け、このほど18人を紹介する「阿 南人 Ver.SDGs」が完成いたしました。お忙しい中、 ご協力いただいた ESPA の皆さま、本当にありがとう ございました。「もっとたくさんのことを話したのに!」 「本当はこう書いてほしかった」という声も聞こえてき そうですが、ご容赦ください。本冊子が地域創生を学 ぶ学生たちの手本となり、阿南市で躍動するブラボー な「阿南人」を多くの人に知ってもらう一助になれば

大正大学地域創生学部 実習指導教員 鈴江省吾

SDGSに取り組む

阿南人 インタビュ-





株式会社TEA PARTY 代表取締役 前川達哉さん

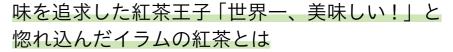
徳島県阿南市出身。"紅茶王子"の異名をもつ前川さんは2012年 夏に初めてネパールへ茶葉の買い付けに行って以来、身の危険 を感じる場面やコロナ禍など、様々な災難を乗り越え、現在も自 ら現地に出向いている。『イオンモール徳島』に店舗を構え、イラ ムの紅茶やネパール産の鞄や服などの販売も行っている。











紅茶の産地として名高いダージリンと隣り合うネパール東部の町、イラム。栽培方法も まったく同じなので、前川さんが買い付けに行くまでは知名度が全く無く、中間業者に安 く買い叩かれ、ダージリンティーと偽って販売されていた。

「イラムの紅茶が世界で一番美味い!」。その味に感動した前川さんは、買い付けに行く だけでなく、ヒマラヤ中を歩き回り、選び抜いた茶葉を自らの手で茶園から空港までネパー ルを横断輸送させる徹底ぶり。前川さんの尽力で生産物の価値を理解したイラムの人たち は、オランダからの支援を自ら取り付け、カナダやドイツなど世界各国に販路を拡大。住 民の収入を2倍に増やすことに成功した。この功績により2019年末、ネパール政府から「国 際市民功労勲章」を授与された。前川さんおすすめの淹れ方は水出し紅茶で香りや性格が よくわかるとのこと。またミルクティーは「苦み渋みに優れた粒々の CTC 茶葉と低温殺菌 牛乳を使って淹れると最高!」とも。そんな「TEA PARTY」の紅茶。ぜひ味わってみて。

取材・記事 / アーセナル



あわい株式会社 代表取締役 小柳秀吉さん

2021年に地域商社『あわい(株)』を立ち上げ、阿南市の食を中心に、阿南市の特産品を扱うECサイトを運営し ている。新たな販路の確保に加え、パッケージデザインの提案など斬新なアイデアで既存の商品のブラッシュ アップも行い、個々の商品の魅力をアップ。こうした取組を徳島に特化して行なっている。





取材・記事/アーセナル

東京と徳島の2つの視点を いかしたマーケティングで 見いだす阿南の魅力

海や山へのアクセスが良いことやお接待の文化など、 徳島ならではの魅力に惚れ、東京と徳島での二拠点生活 をしている小柳さん。二拠点生活は"よそ者"の視点を 保ち、客観的に商品をプロデュースするのに役立ってい るという。

『あわい』という社名は、阿南と日本全国、世界を繋ぐ "間"の存在となるという意味。橋渡し役となるために、 地域の人の意見や活動をリスペクトし、一人一人に寄り 添い、何度も話し合いを重ねることで事業者と良好な関 係を築いている。「地域の事業者さんの共通の悩みは、い いものを作っても売れないということ。ちょっと視点を変 えて、デザインやキャッチコピーを工夫することで、商 品の魅力をより一層増すことができ、阿南市の特産品の ブランド力の強化につなげることができる」と、販売マー ケティングとデザインの支援について熱く語る。また学 生に向けて「多様な生き方ができる時代。若くて体力の あるうちにチャレンジを!」とメッセージを送った。









脇田水産有限会社 脇田葵さん(右)

中川峻介さん(左)

昭和60年に設立した脇田水産有限会社は魚卸販売業において 屈指の実績を誇る。阿南の近海で獲れた角介類を「新鮮で美味し い | 状態でこだわり抜いた商品として全国へ発送している。時代 により変化する消費者のニーズに対応し、真空パックや三枚下ろ しなどの加工も行っている。

取材・記事/休むがよし!





水産業を活かしたイベントで 地域とつながる交流の場を

毎月第二日曜に同社の敷地内で開催している『おさかな広場』。水産加工業を行う株式 会社ヒロ・コーポレーション、株式会社泉源、有限会社マルシマと阿南信用金庫、阿南商 工会議所、四国の右下観光局などが連携し、鮮魚や水産加工品の販売を通して地域を盛り 上げるイベントだ。「防災についても考える場にしたい」と南海トラフ地震に備え、防災意 識を高めようと東日本大震災の被災地 宮城県気仙沼の被災者とも交流があり、『おさかな 広場』では、気仙沼の魚介も産地直送で販売している。こうした脇田さんの思いに賛同し、 中林漁協婦人部や地元漁師グループも参加。「おさかな広場に集まる観光客や地域の人と 直接かかわることで、お客さんの喜びを肌で感じとることができる。イベントをきっかけ に弊社についても知ってもらえることが心から嬉しい。家族から受け継いだ会社をより良 いカタチで守っていきたい」と脇田さんと中川さんは力強く語った。













Profile

有限会社ウッディーワン

代表取締役 武田仁志さん

「地震が起きても家の中にいれば大丈夫」をモットーに耐震性を 重視した家づくりを行う。お客様のニーズを丁寧に聞き取り、デ ザイン、設計、施工に反映する。新築だけではなく、空き家の改修 も行っており、現在は富岡商店街活性化のため、阿南市役所前の 空き店舗をカフェにリフォーム中。 https://woody-one.net/

取材・記事/休むがよし!



有限会社ミートセンターのべ 代表取締役 延 隆久さん

自ら市場へ出向き、しっかりと状態を見て選別した子牛を自社牧場の綺麗な空気と水、恵まれた自然の中で育 成。手塩にかけたこだわりの黒毛和牛を、「安心」「安全」「美味」をモットーに販売している。2018年からは『みは らしの丘あいさい広場』にも出店し、徐々に規模を拡大。行列ができる有名店として親しまれている。





取材・記事/塩パン

社長と委員長の 2つの視点からみた 阿南市の未来とは

建設業で SDGs の取り組むところは少ないが、防災のほか、エ ネルギー問題にも注力している。家の断熱性を高め、太陽光を活 用したゼロエネルギーハウスの推進や建築資材も県産材を主に間 伐材も利用。近年増え続ける空き家についても課題解決に取り組 んでいるが、住宅としての資産価値が減り、リフォームもコスト 面で折り合わないことが、更なる空き家の増加に繋がると危惧し ている。

武田さんは商工会議所の若者定住促進委員会の委員長も務め、 若者の移住定住にも尽力している。中でも U ターンの増加に繋が るよう、子育て世代の人たちと交流し、要望を集約。「若者のため にもっとお金を使って欲しい」という意見を市長へ提出した。「阿 南でしか出来ない体験やプログラムを作り、旅行や帰省の際に少 しでも『阿南っていいな』と感じてもらえれば、最終的に移住し て深く関わる人が増えるかもしれない」と、現在、若者にも刺さ るような阿南市独自の新企画を設計している。







阿南の地で育てた こだわりの牛を 全国のお客様に届けたい!

「牛を飼育していくうえで一番大事なのは健康管理。病 気にならないよう、いかにストレスを減らすか、食べさ せて、寝かせての繰り返し」と話す延さん。メインで育 てているのは、雌の黒毛和牛。雌は雄に比べて肉が柔ら かく、体の水分量も多いのが特徴で、店舗で販売されて いる商品のほとんどが雌だという。雄はスーパーや焼き 肉店用。雌に比べ、噛み応えのある肉質が好まれている のだとか。消費者のニーズを捉え、常に品質向上を目指 す地道な努力の積み重ねが、長年にわたるお客様との信 頼構築に繋がっている。

現在、ホームページでの PR や EC サイトを使った牛 肉販売にも力を入れていて、阿波牛の匠としてのブラ ンド力を海外へも販路を拡げたいと考えている。また SDGs の観点から専用の機械で発酵堆肥も作っていて、 野菜や植物の肥料として有効活用している。「人」と「牛」 に全力で向き合い、様々な意味で両者とをつなぐ架け橋 となる人物といえるだろう。





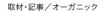






ポラリス株式会社 代表取締役 清原裕登さん、由記さん(奥様)

Polaris113は2020年に阿南市椿町にオープンした一棟貸しの 別荘。「大人も子どもも存分に楽しめる空間づくり」をコンセプト に、築45年の家を大幅にリノベーション。5人~最高8人まで宿 泊可能で、室内焼肉も楽しめるよう換気扇2機も完備。現在、隣の 倉庫内も改装し、バイカー向けの環境づくりも進めている。







お客様の声に応えて快適な空間へ 目指すは観光振興の道しるべ

『ポラリス (Polaris)』は北極星という意味。かつて船人が道しるべとしていた星の名を つけたのは、現代人の人生を導く「道しるべとなって欲しい」という願いを込めて。オー ナーの清原夫妻はチェックイン、チェックアウト時には必ず立ち会い、できるだけお客様 とコミュニケーションをとるよう心掛けている。そうすることで施設の改善点や気づきを 得ることができるのだとか。「初めて会ったときは挨拶程度だったのが、退出時には嬉しそ うに感想を聞かせてくれたり、『楽しかった』と声をかけてもらうことで、俄然やる気が出 る」という夫妻。宿泊者にはポラリスの近くの『かもだ岬温泉』の入湯料の割引特典もあり! 別荘に泊まり、阿南市内の観光スポットも巡ってもらうことで経済循環を起こすのも狙い。 裕登さんは現在、(一社)四国の右下観光局の要職を担っており、徳島県南部の観光が益々 注目されるよう、水先案内人として鼓舞するように自らも光り輝く道しるべとなっている。













Profile

お好みはうす樹樹 酒井 陽さん

1991年創業。店名はお好みを焼くときのジュージューという音と、木のように大きく広がって いきたいという植物が大好きな酒井さんの思いが込められている。スタッフは全員女性だが、 店を発展させていくために料理ができて発想力のある若い男性スタッフを「絶賛募集中」。

料理や会話に彩りを添えて 創作お好み焼きで地域と人とを繋ぐ







今では店の名物となった創作お好み焼きを始めたのは平成17年。那賀川に現れたアザラシ「ナカちゃん」の顔を模した"ナカちゃん焼き"を作っ たのがきっかけだ。以後、カラフルなマヨネーズを使って季節の花やメッセージを巧みに描く創作メニューを作り続けている酒井さん。お客さんの 中には驚き、声をあげて喜んでくれる人もいるという。

創作メニューの中でもインパクトが強く、人気なのが「阿波焼き」。阿南の竹炭、たけのこ、ちりめんを使用し、放置竹林の解決と地産地消を叶え るメニューで、真っ黒な見た目もユニークだ。また 2022 年 7 月に観光農園『サニーズファーム』と共に考案した「お好み焼き風あまべ焼き」もヒッ ト。小麦粉の代わりに有機米の米粉を使用しているので、小麦アレルギーの人も試して欲しい。

現在、マヨアートを発展させた立体のデコレーションの開発や鉄板焼きメインの2号店の出店に向けて準備中。酒井さんは期待に胸を弾ませていた。

取材・記事/ひるのさんぽ

Profile

19歳で自動車の販売、修理を行う『ガレージ岡本』を創業。「人に喜びを与え続ける 感謝の気持ちを忘れるな」 を社訓に掲げ、感謝祭などの交流イベントも定期開催し、人のつながりを重視している。メーカーを問わず、多





取材・記事/塩パン

有限会社ガレージ岡本 代表取締役 岡本忠晃さん

彩な車種を取り扱っているので、ユーザーのニーズに合った車選びができると好評。





与したいという夢を抱いている。



母親のひと言で人生激変!

若い頃は血気盛んで、かなりムチャもしていたという 岡本さん。19歳の時、「社長になってみれば?」と母親 にすすめられたことをきっかけに一念発起し、『ガレージ

岡本』を起業。社長業で大切にしていることは「幸せを

お客様に与え、感謝を忘れることのないようにすること」。 常に感謝の気持ちを持って接するよう、社員にも徹底し

ているという。コロナ禍から現在に続く世界的な不況に

より、以前と比べると減益をしているというが、「ありが

とうの輪を広げていきたい」と感謝祭などを企画し、交

岡本さんが一番好きな言葉は、「一燈照隅萬燈遍照」。

いきなり大きなことをするのではなく、小さなことから

コツコツと行う方がよりより良い成果を得られるという

意味。この言葉がまさに自身の人生を表わしていると感

じているそう。将来的には発展途上国の就労や教育に寄

一燈照隅萬燈遍照な

生き方を貫く

流の場を創出している。



食育を通して

「農業」を職業選択の上位に

野菜の栽培・販売をするかたわら、『育むファーム和』は食育に力を入れている。じゃが いもを子ども達といっしょに栽培・収穫して「じゃがバター」を作ったり、地域でとれた お米の米粉を使った「たい焼き作り体験」など、食べる体験や植えつけ・収穫体験を定期 的に開催している。

「食育イベントを通して、子ども達においしいといってもらえるのが嬉しい」、「農業を通 して食に興味をもち、健康や食生活について考えるきっかけにしてほしい」、「農業の大切 さを知ってもらい、農業がなりたい職業のトップ5に入ってほしい」と熱く語る倉内さん。

食育同様に力を入れているのが、農福連携だ。農業人口が減る現在、日常労働が困難な 人たちに、農業の現場で活躍できるように適切なサポートを行い、軽作業を中心とした、 生きがいの場を生み出すことで社会参画を目指せるようにするために、積極的に農福連携 事業に取り組んでいる。















育むファーム和(なごみ)

代表 倉内和哉さん

阿南市出身。趣味は食育・動画鑑賞。甥と姪が8人おり、当時、野

菜嫌いの子ども達が増えていたので、美味しい野菜が作れない かと8年前に家庭菜園を始めた。自ら作ったとれたての野菜の

美味しさに感動し、農業の道へ。子ども達の笑顔をモットーに高

品質な野菜作りや食育を推進し、現在は福祉サービス支援セン ターせせらぎとの農福連携にて6次産業化を目指している。

Profile



横手博一中小企業診断士事務所 中小企業診断士 横手博一さん 経営理念を大切にし、経営者に寄り添いながら創業・持続的な経営・事業改善支援のほか、補助金や給付金など の計画書づくりのサポートをしている。「徳島県よろず支援拠点」のコーディネーターとしても活動中。





取材・記事/ひるのさんぽ





竹にハマって人生変わった 竹を基点に考える阿南の未来

昔から探究心が強い川原さん。今、夢中になっているのが、竹だ。川原さんは先祖代々 続くたけのこ農家。JA に勤めていた8年間、休日の僅かな時間も竹林整備にあてるほどの 熱中ぶりで、そこで得た「いかに素早く、効率よく整備するか」といったノウハウを自身 の YouTube チャンネルで発信。現在は使わなくなった農機具のリサイクルなども手がけ、 たけのこ栽培を軸に何足ものわらじを履いて生計を立てている。

そうした活動の中でも最も力を入れているのが、竹林整備の際に廃棄処分となる竹の有 効活用。竹チップに加工し、農業用資材として活用する方法を模索している。「これが成功 すれば資源を無駄にせずに済みます。地元阿南から SDGs に繋がる新たな取り組みを起こし、 環境保全や景観の維持といった好循環を生み出したい」と熱く語った。

また農業以外にもバイクが好きが高じてガレージを備えたバイカー向けの民泊事業も手 がけ、災害時には避難者を受け入れる新野町シームレス民泊協議会の会長も務めており、 地域活性化にも熱心に取り組んでいる。







取材・記事/オーガニック

える。

竹生(ちくしょう) 代表 川原守人さん

たけのこ栽培を中心に竹を活用した事業を展開する『竹生』。竹

林整備で不必要になった竹を竹チップにして販売するなど、活用

方法を独自に生み出し、新しいタイプの経営モデルを作るために 奮闘している。2019年からYouTubeへの投稿を始め、竹林整備

の様子などを紹介した「チャンネルバンくん」は登録者3万人を超

地域に熱い思いを持つ 事業者を応援し、 阿南をさらに魅力的に

金融機関で働いていたころの知識や経験をいかし、補 助金や給付金などの金銭面でのサポートを得意としてい る。創業や経営改善の支援、企業の資金繰りや事業承継 など、幅広い分野で経営者をサポートする横手さんのモッ トーは「理念を大切に」。企業理念や事業コンセプトとい う経営の軸となるものを事業者と共に考え、足腰の強い 企業をつくりたいと尽力している。

「地域に貢献できる人同士のつながりが、地方創生のス ケールを大きくする」という思いから、地域に対して熱い 思いのある企業同士のマッチングも積極的に行い、「地方 創生には正解がないからこそ、コツコツと課題に取り組む 必要がある」と、自らも『阿南 SUP TOWN PROJECT』 など、多くのプロジェクトに積極的に参加している。「様々 な思いや信念を持つ企業や団体を支援することで、阿南 がもっと魅力的な地域になって欲しい。事業者の右腕とし てこれからも邁進していきたい」と語った。





4CORNER 代表 吉積和重さん

Profile

Profile

カモ谷製作舎

製作舎』をオープンした。

代表 岡崎裕樹さん、有美さん

https://kamodanicoffee.stores.jp/

取材・記事/テリヤキシロノワール

岡崎裕樹さんは徳島生まれ徳島育ち。14年間、県外でコーヒーミ

ルや焙煎機を作るメーカーなどで働いていたが、子どもが産まれ たことをきっかけにUターンし、2020年に阿南市地域おこし協力 隊に着任。これまでの経験をいかし、古民家で焙煎工房『カモ谷

那賀川をフィールドにSUP、パックラフト、レンタルサイクルなど阿南市の自然と街並みを体験できるアクティビ ティを立ちあげた。開業して1年だが、県外からも訪れる人も増え、リピーターも多い。スタッフには阿南市地域 おこし協力隊2人も所属していて、後継者育成にも力を注いでいる。





取材・記事/オーガニック





地域×珈琲できることを積み重ね、 持続可能な社会を創る

店舗と通販の両方で自家焙煎のスペシャルティーコーヒーを販売している『カモ谷製作 舎』。苦みと酸味のバランスのいい、毎日飲んでも飽きない「ごくごく」、はじめて飲んだ ときの心躍るような気持ちを表わした「うきうき」などネーミングもユニークで、「コーヒー にこだわりがある人はもちろん、あまりコーヒーを飲んだことがない人でも美味しく飲める よう、工夫しています」と岡﨑さんはいう。コーヒーで持続可能な社会を創り上げていこ うと、不要となった紙袋に『カモ谷製作舎』のショップシールを貼り、紙袋を再利用。包 装コストを抑え、安くコーヒーを提供し、SDGs にも取り組んでいる。岡﨑さん自身、二児 のパパということから、今後はコーヒーを通して子ども向けのイベントもやりたいという。 店舗では奥様の有美さんがセミオーダーで作るワンピースなどの衣類も販売している。







アクティビティで繋がる 4つの魅力の 発信拠点

自然豊かな阿南市に、アクティビティで人を呼び込も うと奮闘している吉積さん。阿南市の山、川、海、街の 4つの魅力を存分に楽しんで欲しいというコンセプトか ら『4CORNER』と名付けた。 小さなゴムボートに乗っ て急流を下る「パックラフト」、サーフィンのようなボー ドで立ち漕ぎしながら、川の流れに身を任せて楽しむ「リ バー SUP」、自転車で阿南市内を巡る「レンタサイクル」 の3つのアクティビティを基盤に活動していて、自然の 中で活発に体を動かすことで日頃の疲れを癒すリフレッ シュ効果が期待できるそう。

また SUP を使った河川の清掃活動「エコフレンドリー SUP」も定期的に行っていて、普段なら手の届かない場 所も SUP に乗って作業するので、ひとつ残らずゴミを回 収できる。「レンタサイクルで市内を巡れば、地域の魅力 を探しながら CO2 削減にも繋がる。こうした地域貢献 事業を通じて、そこで生まれる出会いを基盤としながら、 アクティビティの輪を世界へ広げていきたい」と語った。











株式会社岡部機械工業 代表取締役 星場俊之さん

昭和49年(1974)創業。大塚製薬と共に世界初の錠剤印字検査 装置を開発し、本社を含めて5ヵ所の工場で自動省力機械の製造 や精密部品加工、産業機械据付修理などを行う。従業員が働きや すい職場づくりにも力を入れていて、経済産業省の健康経営優 良法人2022年認定、子育てサポート企業として「くるみん認定」 も受けている。

取材・記事/ひるのさんぽ





社員と共に成長する企業を目指し、 環境保護にも取り組む

「社員を幸せにすることが一番。興味を持って入社してくれた人を大切にしたい」と産業 カウンセリングを定期的に実施し、コロナ禍においては社員のメンタルケアにも心を配る。 同社の育児休暇取得率は男性約44%、女性は100%と平均値※よりも非常に高く、子育て しやすいのも特長だ。

星場さんはゼロ・ウエイストの町として知られる上勝町出身。「生まれ育った町が資源の 再利用に力を入れていることもあり、環境保全に興味関心がある」と、自然環境の保護に 対する思いも強く、阿南市が推進する海洋環境保全、美化活動、環境啓発・教育を始めと する関係人口創出のための「ESPA (EARTH SHIP PARTNER ANAN)」にも登録。月1 回の清掃活動では社員の半数以上が参加している。

こうした働きやすい職場づくりや女性の活躍推進、地域に密着した取り組みは数々の賞 も受賞。星場さんの「社員と共に成長していきたい」という強い決意に深く感銘を受けた。











※厚生労働省の「令和3年 度雇用均等基本調査」に よると、日本における育 休取得率の平均は男性 13 97%. 女性85 1%。









株式会社一生 代表取締役 北條誠一さん

観光農園『サニーズファーム』の管理運営の他、無農薬米やイチゴなどの農作物の生産・加工・販 売などを行う。「徳島の農業で、何か未来に残せるものを作りたい」と、有機栽培やドローンによ る酵母菌散布、瞬間冷凍技術など、様々な挑戦を続ける北條さん。次なる夢は「阿南発宇宙食」!?

阿南モデルを全国へ! 食で作る"あ!なんて素敵な街"









『サニーズファーム』の直売所に停まる黄色のキッチンカー、通称「サニファモービル」。災害時、被災地に食料を届けることを目的とした四輪駆 動の災害支援特化型防災キッチンカーだ。「災害時こそ、いつもと同じ安全な食を」という北條さんが提供する防災食は、徹底して安心安全にこだわる。 生態系を守りながら有機栽培した米やイチゴなどの農作物を、オーガニックな素材で作った調味料で味付け。保存料や防腐剤も使わず、瞬間液体 冷凍により60ヵ月もの長期保存を可能にした製品は防災食とは思えないほど絶品だ。キッチンカーは防災イベントにも出店。日常的にも防災食を味 わってもらえるようにしている。「食は災害時の困難から立ち上がる力に直結する。災害時でも阿南の安全でおいしい食材を食べられることが広まれ ば、街の魅力も上がる。食を通し、『あ!なんて素敵な街』と呼ばれるようなまちづくりをしたい」という北條さん。食を通じた地域創生への挑戦は続く。

取材・記事/休むがよし!



Profile

なかがわ野菊の里代表新居義治さん・希子さん(奥様)

代々継承された徳島伝統の黒米を夫婦で栽培する12代目農家。農薬と化学肥料を使わない有機農業で栽培 し、安心安全な米を作り続けている。12haと広大な農地で多彩な品種のお米の栽培を行う。ネットで8種類の米 や加工品・阿波晩茶の販売を行っている。





取材・記事/塩パン



知ってもらいたい。」と語った。



大切にしていきたいと思う | という。

伝統の味を再興し、

守り続けて

食の安全と思い出の味を

1300年の歴史ある『伝統黒米 弥生紫』を栽培する 農家に生まれ、大学卒業後に家業を継いだ新居さん。作 業のほとんどを手作業で行うことから、戦後の農業機械

導入と大量生産大量消費の時代の波に押され、幻となっ

た徳島の伝統的な白米の品種『徳ばん』を、地道な努力 によって復活。テレビやラジオ、SNS を活用しながら、 その魅力を発信し続けている。明治神宮への奉献や農水

省主催「フードアクションニッポンアワード 2016 究極

の逸品」を受賞。昔ながらの風景や思い出の味を後世に

伝え、絶やさないように…と食育にも注力している。「思

い出の味とは、誰かと食べたその時の情景や味を思い出

し、気持ちが沈んだ時にも心の支えとなるもの。伝統的

な食材の存続は、未来の人々の心と健康を守る要となる。

また、春には泥だらけになりながら田植えを行い、秋

には石包丁で稲刈りをする子ども向けの農業体験も実

施。「体験を通して、自然への親しみと、農業の楽しさを









Profile

岩浅印刷所

岩浅睦生さん

1993年創業。「お客様第一に考え、要望にできる限り応える」。 気温によって硬さが変化するインクはメーカーから選別し、鮮明 な印刷を可能にしている。4代目社長の睦生さんの趣味は、サイ クリングを兼ねた風景の撮影。My自転車はmade inさぬきの Tyrellというメーカーの自転車で、愛犬のモコがお供する。 岩浅さんのInstagram:@tyrellanan

取材・記事/テリヤキシロノワール

阿南の絶景を世界に発信! 豊かな自然を残すためにできることを

ダイエットと健康管理のためにサイクリングを始めた岩浅さん。車では気づかなかった 四季折々の阿南の風景に感動し、現在はドローンを活用した広大な風景の撮影も行ってい る。岩浅さんのインスタには、これまで撮影した阿南の海やリバーサップ、祭りなどの写 真がたくさん。写真は阿南市の夏祭りポスターにも採用され、印刷も手がけた。中でも一 番のお気に入りは6月に亀崎漁港で撮影した一枚。四国電力の「私と四国の希望の灯り」フォ トコンテスト 2022 で優秀賞も受賞した。「写真を通じて地域を発信するだけでなく、見た 人に環境保護にも意識を向けて欲しい」と、自身も普段から桑野川や淡島海岸の清掃活動 に参加するなど、環境保護活動を実践している。『岩浅印刷所』では再生可能なベジタブ ルインキの使用やプラスチック製包装紙の削減など、環境に配慮した取り組みを行ってい る。「自然環境を守ることは住み続けられるまちづくりにもつながる」と語った。









株式会社すだっち阿南 代表取締役 鈴江省吾さん

元阿南市役所職員。平成29年に「学生が起業するモデルとなる」 という理念のもと、大正大学(東京都豊島区)と阿南市をつなぐ 拠点として地域創生ソリューションパートナー会社『すだっち阿 南』を設立。「若者が帰ってきたくなる街」を創造するため、地域 の魅力を体験できるポタリングツアーなども実施している。

取材・記事/アーセナル





阿南の魅力を搾り出す!! 阿南と若者を結ぶ未来の架け橋

大正大学の学生を実習生として受け入れ、地域課題の掘り起こしや交流事業のサポート を行う傍ら、『グランフィットネス阿南観光協会』の事務局を務める。最近は英国製の折り たたみ自転車ブロンプトンに乗って、お散歩感覚で阿南市内を回るポタリングツアーをは じめ、阿南の自然を満喫する体験型アクティビティの開発にも注力している。

また、こうした体験プログラムの元となる豊かな自然を守るため、環境問題や SDGs に目 を向けてもらえるよう、海洋生物の生態を学ぶイベントも開催。さらに商店街の活性化を目 的とした『まちゼミ』や『まちマルシェ』の運営にも関わり、高校生が地域のイベントに参 画できる仕組みづくりも手がける。「こうした活動を通じて地域に関心を持ち、阿南を離れ ても『いつか帰りたい』、『この街に住み続けたい』と思ってもらえるきっかけを作りたい」 という鈴江さん。阿南と若者を結ぶ未来の架け橋としての活動は、これからも続いていく。









阿南市のSDGsの取り組み

阿南市では SDGs に関する取り組みを拡げ、 さらなる地域創生に繋げようと海洋環境の保 全、美化活動及び環境啓発・教育活動などを 推進しています。そうしたプロジェクトに積 極的に関わる企業・団体・個人等を「EARTH SHIP PARTNER ANAN (通称 ESPA)」とし て登録し、官民協働で持続可能な社会づくり の実現を目指しています。

また阿南市以外にお住まいの人で、サステナ ブルなライフスタイルを実践したり、阿南市 が行う海岸・河川の美化活動に参加した人を 「EARTH SHIP CREW ANAN」(通称 ESCA) として認定し、阿南SUPタウンプロジェクト 推進CREWのメンバーズカードを交付。地域 外の人と交流し、阿南市のファンを増やす活 動も行っています。対象事業所でメンバーズ カードを提示すると割引などが受けられる特 典、サービスもありますので、ぜひ応募してみ てください。









詳しくは 阿南SUP TOWN PROJECT https://sup-anan.com/esca/

個人テーマの調査研究

滞在中、学生各々が関心を もつテーマについて調査研 究に取り組みました。



阿南の子どもと

サードプレイス

渡邊雛乃

『べんざいてんのお家』と阿南市役所 地域共生推進課に話を聞き、現代の子 どもには自主性が求められていること など子どもをとりまく課題について情 報収集した。



SNSによる

情報発信と地域創生

青木大樹

大正大学地域創生学部公式インスタ グラムに地域実習の様子を投稿。短 い期間にも関わらず、阿南市での活動 が多くの人から共感を得ることができ



歴史的遺産の

岡崎圭祐

太龍寺を訪問。歴史的遺産を見て終わ りではなく、遍路道がトレランコース として活用されているように、何度も 訪れたくなるような仕組み作りの重要 性を感じた。



財政と阿南市

~企業と阿南市の関係について~

姥泊 慶

阿南市の財政は日亜化学などの大企 業に依存しているのではないかと考え ていたが、自然災害等も考慮し、様々 な対策を検討していることがわかっ



アクティビティを

活用した地域創生

木戸 快

SUPやBMX、釣り、サイクリングなど の体験を通して阿南は何をしても楽し いことを実感。豊かな海、川、山に囲ま れた阿南はアクティビティの可能性無



阿南の資源を

活用したものづくり

鈴木歩

阿南光高校が考案した「ぽてっとライ ト」に注目。震度5以上の揺れで倒れ ると自動で点灯する仕組みで、放置竹 林の活用にも期待できる。



人の関りと人口

土井進之介

例えば海が好きな人に、阿南のキレイ な海を紹介するなど、満足度の高い情 報を提供することで移住などに繋がる のではないかと考察した。



阿南の特産品を

使ったバスボム作成

菅田勝壴

竹酢液を活用し、竹炭を混ぜ込んだバ スポムを試作。竹炭を入れて黒くし、 お松大権現をイメージした猫型など 色や形にこだわり、商品化できないか 検討した。



スポーツと地域

鈴木陸斗

阿南で開催されているアウトドアイベ ントは、それぞれが関係して阿南全体 を盛り上げている。これらを競技化さ せることで、さらに関係人口増が見込 める。



地域資源を活かした

イベントと教育

金沢修悟

SUPなど地域に根ざしたイベントが盛んに行われていた。今後は自然を活かしたイベントに参加するだけでなく、イベントの運営側も経験してみたい。



竹の実用性

五十嵐愛華

放置竹林の有効活用に取り組んでいるNPO『竹林再生会議』に話を聞き、 4月~5月しか採取できない竹水を化 粧水として商品化できないか、検討した。



草木染めのブランド化

須田萌子

前回、淡路島で藍染めを体験したので 阿南では柿渋染め体験。草木染めの 認知度を高めるためにぬいぐるみや オーダーメイドの服などの商品化につ いても考えた。



土地と建物で

魅力を作る

藤吉眞建郎

「土地や物件を用いた地方創生とは?」をテーマに顧客の必要条件を満たし、満足される建物とは何なのかについて調査し、空き家改修による貸別荘の事業などについて知ることができた。



持続可能な農業に向けて

~農業の法人化・IT化~

髙橋めい

IT技術の導入による農業のスマート化が、生産効率向上や担い手不足の解消につながるのではないかと考えた。農福連携など他産業との連携により、魅力ある農業を実現しようと活動する人達に話を聞けた。



スポーツを通した

まちづくり

上里李空

スポーツツーリズムをテーマにスポーツ、アクティビティによる観光誘客について調査。そのためにグルメや宿泊施設や娯楽施設をどうするかといった新たな課題を見つけた。



イベント開催における

地域経済の活性化とまちの賑わい

夷藤桜子

子ども向けイベントを多く開催する 『NuuN』の濱田茉美さん、『rise』の 菊池郷史さんにお話を聞き、阿南市で は子どもや若いファミリー向けが多い ことが分かった。



空き家を活用して

若者の居場所作り

橋口彩花

美波町日和佐地区を訪問し、古民家カフェやゲストハウスを見学。景観、雰囲気を壊さないことの大切さや空き家 改修をきっかけに地域愛をつくれる可能性も感じた。



光のまちづくり

筧 明菜

イルミネーションやライトアップなどで屋外空間を演出する景観照明を研究テーマに、ルミナスタウンプロジェクトについて調査。新たな事業展開として影絵を使った商店街スタンプラリーを予定しているそう。



T-Duck

あひるに見えるけど 実は鴨の女の子。 大正大学に 会いに来てね!



編集後記



鷲田勝喜(オーガニック)

今回で2回目の阿南人作成。前回より面白い文章を書くことができたと思います。去年は行くことができなかった阿南で、お話を聞いた皆さんの想いと魅力が光のまち阿南の1番の輝きだと再確認できる経験でした。また阿南に行こうと思います!ありがとうございました。



夷藤桜子(ひるのさんぽ)

阿南で活躍されている方々に直接お会いし、非常に貴重なお話を伺うことができました。取材させて頂いた皆さんに共通して、活動の根本にお客様や社員の幸せのために取り組むという想いがあり、それが実際に行って感じた阿南の温かさに繋がっているのだと感じました。



姥迫 慶(塩パン)

インタビューをした中で大きな気づきとしては、自分の行っている仕事に対して誇りを持っていることです。自分の好きなことだからこそ、楽しそうに社長の方々が話して下さったので自分も仕事を楽しめるように生きていきたいと思いました。



金沢修悟(ひるのさんぽ)

まず初めに、インタビューを受けていただいた皆さまありがとうございました。初めての取材とあって、最初の内は固い雰囲気が流れていましたが、話していくうちに自然と空気が和み楽しい取材ができました。人と話すことで得られる発見や地域という現場で働く人の意見から得られる考え方など、多くの学びがありました。とても勉強になりました。



土井進之介(塩パン)

様々な企業の方にインタビューさせていただきましたが、皆様が自分に しかできない経験を元に今のお仕事をしていると感じました。今回の実習 での気づきを今後の活動に活かしていきたいと思います。



藤吉眞建郎(ひるのさんぽ)

自分の将来めざしたい道(進路)に変わりはないが、今回の取材でいろいろな分野で活動している人から話を聞くうちに、違った面からの可能性やアプローチがあることに気がついた。



岡﨑圭祐(塩パン)

取材を通して、皆さんが商品や会社に込めた思いの背景から、人への感謝や食物の有り難みを学ぶことができました。今後は感謝の気持ちを言葉で伝えていきたいと思います。また皆さんとお会いしたいです。



筧 明菜(休むがよし!)

企業に自ら足を運びインタビューをするなんて、初めての体験だったので緊張しました。しかし、取材先の方の仕事に対する熱い気持ちに触れ、1つの記事として作成できたことは、非常に良い社会経験になりました。作成した記事を見て、喜んでもらえれば私も嬉しいです。



青木大樹(アーセナル)

『阿南人』を作成するにあたって、全く知らない人に取材をするという経験が初めてで、緊張もしたけれど、それ以上にとても楽しかったです。その人がどのようなことを考えてこの事業を始め、今どのようなことをしたいと思っているのかを知り、もっとさまざまな事業者に話を聞き、阿南について知りたいと感じました。



髙橋めい(休むがよし!)

阿南市では地域内で多彩な事業者と関係者が協働し、業種間での技術・ 知見の融合や産業連携により、SDGsに向けた様々なイノベーションが創 出されているということが分かりました。阿南のような熱量を持った地域 が、全国に広まってくれることを願います。



渡邊雛乃(アーセナル)

本格的なインタビューから記事の作成という貴重な体験を通して、阿南の魅力を詳しく知ることができました。インタビューは初挑戦だったためとても緊張しましたが、とてもやさしくお話をして頂いて、阿南の人の温かみを感じることができました。ありがとうございました!



橋口彩花(休むがよし!)

地域のために活躍中の方々へインタビューするというとても貴重な機会 を頂けてとても嬉しかったです。第一次産業から防災、建築まで幅広い分 野からのお話が聞けて様々な考えや各々が持つ持続可能な街づくりに対す る熱意を感じることが出来、勉強になることばかりでした。



鈴木陸斗(アーセナル)

記事作成のためのインタビューを通して阿南の魅力や企業について笑顔で話してくださる姿に、私も自然と笑顔になり、時間があっという間に過ぎてしまいました。楽しい思い出が今でも夢に出てきます。今夜も阿南を思い床に就こうと思います。おやすみなさい!



五十嵐 愛華(テリヤキシロノワール)

初めて取材をさせていだたきましたが、ホームページ上だけでは分からない情報を沢山お聞きすることができて貴重な経験となりました。阿南は優しい方ばかりでとても有意義な時間を過ごすことができたと思います。阿南の皆様に心より感謝申し上げます。



木戸 快(オーガニック)

二週間という短い滞在期間でも、阿南の資源の豊かさ、地域の人の素晴らしさを身に染みて感じました。そんな阿南で働く方々をインタビューして記事にまとめることができてとても嬉しく思います。また阿南に行きたい? かまへんかまへん!



須田萌子(テリヤキシロノワール)

阿南では、住民の皆様から、自分たちで地域を盛り上げよう、より良くしようという意欲を、肌で感じることができました。SDGsや地域内の問題など、様々な課題に対し、自分事として向き合うその姿勢は、多くの地域が目指すべきものだと感じました。



鈴木 歩(オーガニック)

インタビューでそれぞれ取材した方に共通するのは「阿南市が好きだ」ということ。濃密なインタビューを400文字にまとめるのは難しいことでしたが、多くの皆さんに阿南人の魅力が伝わればと思います。



上野李空(テリヤキシロノワール)

色々な方から取材をさせていただいた際、親切で丁寧にお答えくださり、 たくさんの方のサポートで記事を作成することができました。記事の作成 をするという体験が初めてのことだったのですが、阿南の魅力が詰まった 記事を作成することができたと思います!

3 14